

蓑虫庵

松尾芭蕉（1644-1694）がその生涯で、滞在した芭蕉五庵の中で、蓑虫庵は現代の再建とはいえ、現存する唯一の庵である。オリジナルは芭蕉が庵開きのお祝いの句を詠んだ 1688 年に建てられた。

みのむしの　ねをききにこよ　くさのいお

この俳句は、草庵の名前に影響を及ぼした。

蓑虫庵の建物と土地はもともと、芭蕉の弟子の一人であり、彼自身も俳人であった服部土芳（1657～1730）の所有であった。土芳は後に、芭蕉の著作や教えの多くを「三冊子（さんぞうし）」にまとめた。蓑虫庵の境内には、芭蕉の作品が記された多くの句碑がある。